

## 平成22年(2010年) 定例会(第2回) 一般質問

---

平成22年6月7日～23日 午後1時

---

### ◆質問内容

緑政クラブ所属の椎名幸雄でございます。緑政クラブは、緑豊かな自然と、市民が共生し、安心して安全な町づくりを理念に活動しております。

平成22年6月4日民主党の菅直人代表は国会で首相指名を受け、第94代の首相に選出されました。

昨年8月民主党が政権を取り、

鳩山首相が誕生いたしました。

鳩山政権とは何であったのでしょうか。

甘い公約で政権交代、その公約は守れず、自身の発言に対して責任はとらず、ただ国民に謝罪するのみ、あげくのはてに普天間問題で墓穴をほり、首相の座を投げ捨て退陣いたしました。

あまりにも理想主義者であった。

理想論というのはやっかいなもので、それだけでは役に立たないどころか、弊害を生み出すこともある。

また自己中心主義的であり、すべて自分の言う事は実現すると思い、現実とかけ離れてしまっていた。

野党党首であればこのような結末にはならなかったであろうと思います。

菅首相には、失われた8ヶ月間を取り戻し、日本のゆく道をはっきりと示し、任務を投げださず成し遂げてもらいたいとおもいます。

宮崎県の口蹄疫問題、感染地域の拡大が止まらない。日本の畜産の最大の危機となっている。

宮崎県及び政府は自衛隊をも派遣し、拡大防止と鎮静化を図っているが見通しはまだ立っていない。

自分の子どもの様に育てた子豚たち、殺処分が決まっている。

腹いっぱい食べさせてやりたい、と、畜産家の男性は涙ぐんでいた。

県及び政府は全力を挙げて被害を食い止めて頂きたい。今はただ終息を祈るだけであります。

通告により大綱3点につきまして質問をさせていただきます。

### ●大綱1、教育委員会施政方針について

平成22年第1回定例会において教育委員会施政方針がのべられました。

この施政方針は今関前教育長の最後の施政方針でありました。

今年度よりは中村新教育長が引き継いでゆくわけであります。

教育委員会施政方針において、学校教育におきましては「豊かな心の育成と望ましい人間関係づくり」、「確かな学力の育成」、「健やかな体の育成」の推進を図り、「生きる力」の育成に努めてまいります。

また教育行政の基本方針を「個性を尊重し、互いに学びあう生涯学習の実現」とし、

以下の三つの施策を展開していきます。とのべられています。

新教育長はこれらの施策を継承し、また、独自のお考えを加えた施策を遂行されるものと思います。

多岐にわたる教育施政方針のうちの一部であります。質問をさせていただきます。

第一の施策の一つ目の重点、「生涯学習機会の充実」の中に

「家庭の教育力の低下への対応を課題として捉え」とあります。

この内容はどの様に捉えればよいのでしょうか。

我が国は現在豊かな国となった、社会が蓄えた富によって個人の権利や自由と平等が最大限に保障されている。

自由というあらゆる社会的束縛から解放される、

一見すばらしいことのように思えるが、かえって自我は強く支配されることを私たちは忘れがちである。

自分勝手に、自由気ままに振る舞い、そして依存的で自らは労を惜しみ、

身勝手な要求をする人がでてくる。

これは最近新聞等で目につく事ですが、幼児虐待、2～3歳の子どもが粗相し、

治らないからと暴力をふるい重体とか、乳幼児が泣きやまないからと床に投げつけ死亡させてしまったとかが発生している。

我孫子市においても家庭教育の充実には力をいれていますが、

子どもの順調な発育を促すのは何よりも親の愛情であり、これに勝るものは何もありません。

子どものとき、暖かい親の手で育てられ、自らを愛せる人は、他人を愛せます。愛情豊かな親のもとで育った子どもは、目が輝いており、笑顔もまた美しい。

国連児童基金(ユニセフ)が平成19年5月東京や千葉など小学5年生200名以上を対象とした「朝食と学校での生活リズムとの関係」を調査したアンケートがある。

それによるとほとんどの児童が朝食をとっていたが、主食、汁物、主菜、副菜の4品をしっかりと食べている子どもは全体の31%、3品の子どもが42%、2品以下しか食べない子どもは27%という結果でした。

朝食での品数と学校での生活リズムの関係で、品数を多くとる児童ほど学校が楽しいと感じる割合が高くなっている。

4品が62%、3品が35%、2品以下が17%となっている。

極めて強い相関関係が成立している。

しかも、朝食が和食か洋食かという点でも顕著な差が見られる。

学校が楽しいと感じる割合は和食派が57%に対して、洋食派は19%であった。

和食派の児童の77%が朝7時までには起きるのに対し、

洋食派は44%まで落ちるとの差が見られる。

調査を担当した、明石要一千葉大学教授は、平成19年5月29日の産経新聞で「この結果だけで和食がいいとはいえないが、和食の方が手間かかり、手間をかける家庭のほうが生活リズムも良好なのは」とコメントしている。

子どもは親の背中を見て育つ、と言います。

自分の為にこれほど手を掛けてくれる、その時は何とも思はないが、この様な一つ一つの積み重ねが家での「しつけ」となってくると思います。

また親には社会のルールを教える義務もあると思います。

三つ目の重点「文化芸術活動の推進」の中で、旧市民会館に代わる新たな文化施設の整備については、有効な整備手法の一つとして共同設置について、柏市、流山市、我孫子市による広域行政で、相互利用の促進と併せて協議しています。

その結果を踏まえ、今後の整備について検討していきます。と記されています。

今各地方自治体は財政難に苦しんでおり、各施策の実行に知恵をしぼっております。

平成21年第二回定例会において、柏市民文化会館の利用と共同設置について質問を致しました。その後の進捗状況についてお知らせください。

第二施策の一つ目の重点「学校教育の充実」のつきましては別項目で質問をさせていただきます。

二つ目の重点「地域に根ざした教育の充実」です、のなかに

子どもたちが地域に愛着と誇りを持ち、心豊かに育つように我孫子ならではの地域資源を活かした教育の推進を図りますと記されております。

政策研究大学院大学の岡本教授は八十カ国以上の国々を訪問して、世界各国の教育事情を調査した研究者であります。

教授は少なくとも「先進国」と呼ばれる様な国では、子どもたちに対して

「自国に対する自信と誇り」を持たせる教育が意図的に行われており、

国土面積、人口、経済力、軍事力、天然資源、文化伝統、

あるいは過去の歴史における栄光など、

あらゆる側面を動員して「君たちの国はスゴイのだ」という意識を持たせている。

当市に当てはめてみると、我孫子市では1958年から1967年までの9年間東大文学部考古学研究室による古墳群の発掘が継続的に行われている。

その結果5世紀から7世紀にかけて前方後円墳5基、前方後方墳1基、

円墳1基の7世代の首長墳が継続的に造営されたことが確かめられた。

さらに1978年市教育委員会が行った根戸船戸遺跡では、

7世紀末から8世紀初頭頃の最終末の前方後円墳と見られる古墳が発見されている。

我孫子中学校の校庭にも竪穴式住居の跡が発見され私も中学生のとき

発掘のお手伝いをさせていただきました。

10世紀下総地方で活躍した平将門の遺跡、江戸時代の宿場町としての役割、利根川の生い立ち、大正時代手賀沼の台地をこよなく愛した白樺派の人々、我孫子市は古墳の時代より現在にいたるまで多くの先人たちが生活をした素晴らしい所であります。

学校教育において我孫子市の成り立ち、そしてこの地でくり広げられた歴史、人々の生活、自然の素晴らしさ。

これらの我孫子市の誇り、素晴らしさを教えるべきだと思います。

### ★質問をさせていただきます。

質問1.新教育長は平成22年第一回定例会の教育委員会施政方針を継承し、遂行されるものと思います。

施策を行うにあたり新教育長の思いをお聞かせ下さい。

また新たに付け加えたいと考える施策がございましたら併せてお聞かせ下さい。

質問2.家庭の教育力の低下とは何を捉えていますか。

また解決するにはどのようにしたいと考えていますか。

質問3.家庭教育学級の充実はどのようにはかりますか。

質問4.広域行政の中の柏市民文化会館の利用と共同設置協議についての

進捗状況はいかがでしょうか。

質問5.地域に根ざした教育とはどのような教育を目指しておりますか。

### ●大綱2、全国学力・学習状況調査について

平成22年4月20日に「全国学力・学習状況調査」(全国学力テスト)が全校参加から抽出方法によって実施されました。

我孫子市の小学校、中学校は抽出

された小学校7校、中学校2校の小学6年生、中学3年生が参加。

全国の小中学校の参加は、抽出率の内訳では小学校25.3%、

中学校41.5%自主参加を含めた公立小中学校の参加率は74.5%、

千葉県においては、県学事課によると県内の全小学校850校のうち抽出対象校は161校、

希望利用校は235校合計396校、全中学校389校のうち抽出対象は137校、

希望利用校は88校合計225校、県内の実施率は50.1%となっている。

千葉県は全国平均よりは24.8%少ない数字である。100%参加の県は秋田、石川、福井、和歌山、香川、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、宮崎、鹿児島のみである。

今回は過去3回と異なり3割の抽出方法であり、方法について種々の問題点が指摘されている。

1. 抽出対象校の採点や集計作業は国費負担、希望利用校は自治体や学校負担
2. 採点者が異なると応用力を問うB問題は記述式なので差がでる。  
(大阪府教育委員会では2~3%の誤差がでるのではないかとやっている。)
3. テーターが前年比較に使えない。  
学校ごとの対策もできなくなった。
4. 不参加だった学校の保護者は参加させたい気持ちが強いのではないのか。  
なぜ抽出方法になったのか。

大阪府の橋下知事は4月20日に、全校参加から抽出方式に変更して実施された全国学力テストについて「民主党が完全に民意を見誤った典型例」と述べている。

川端文科相は就任直後「予算削減」を主な理由に抽出化を決めた。

テストの趣旨も都道府県レベルで学力が把握できれば問題はないと述べている。

費用は57億円の予算が33億円に圧縮された。

教育は国の根幹にかかわる問題であり、

年に1回行われる全国レベルの学力テストの経費を削るべきものではないと思います。

行政刷新会議事業仕分けにおいて、その中にこれが国政を預かる議員の発言かと耳を疑う発言がありました。

平成21年11月13日文科省予算仕分けについてある議員が

日本の次世代スーパーコンピューターへの予算編成に対して

「世界一を目指す理由は何か、2位ではだめなのですか」と発言し、次世代スーパーコンピューターへの予算編成削減を決めた。この発言に対し、ノーベル賞受賞等の科学者が鳩山由紀夫総理に、予算編成を行うべきだと直談判した。石原慎太郎東京都知事は彼女を「白痴的」と批判した。研究の成果はすぐ出るものでもなく、無駄だと思えるものもあるが、花を咲かすものもある。

全国学力テストは全国一律に行う事に意義があり、またこの結果を基に各学校において、内容を分析し、力を入れる箇所は力を入れ、弱い箇所は補強する。

秋田県はかつて全国学力テストにおいて最下位になったこともある。そうした過去への反省から子どもの学力向上に取り組んだ。その成果が現在のトップとなっている。また平成21年最下位の沖縄県からトップの秋田県に、小学校と中学校それぞれに一名ずつ教師が派遣された。派遣された先生の感想が平成21年11月18日付けの毎日新聞に紹介された。「寝坊して遅刻したり、授業中寝ている子がいない。廊下はきちんと歩かし、給食もきれいに食べる。教師への言葉遣いも丁寧」とのべている。

全国学力テストは学校の序列化を促進する、また児童、生徒間で過度の競争を生じるという点が懸念されているという。この程度のテストでそこまで懸念する必要があるのか。現に学校より外に出れば、高校入試等については競争ではないか。学校内で、また学校間で切磋琢磨して学力を高める。我孫子で1番、千葉で1番、日本で1番を目指して行く事、目標を大きく持つことは必要と考えます。学力とは試験の点数のみをさしているものではありません。点数は自分が学んできた中の一部分の評価であります。また一つの目安であります。

私は教育とは理想だと思っております。自分の描いた理想に向かって進んで行く子どもたちを育てて行く事だと思います。

私は我孫子市は理想に向かって進んで行く子どもたちを育てられる環境が整っていると思っております。先人達がこよなく愛した手賀沼、また緑豊かな自然に恵まれた静かな町です。教育先進都市を目指して教育に取り組み、将来は教育先進都市我孫子を実現する様努力して頂きたいと思っております。

### ★質問をさせていただきます。

質問1.4月20日行われた抽出による全国学力テストについてどの様に評価しますか。

質問2.全国学力テストは全校参加すべきと考えますがいかがでしょうか。

考えをお聞かせ下さい。

質問3.学校教育の中にも競争主義の考えを取り入れる必要があると思いますが、

考えをお聞かせ下さい。

質問4.教育先進都市我孫子についてはどの様に考えますか、

考えをお聞かせ下さい。

### ●大綱3.幼保一元化と保育行政について

平成21年5月に教育福祉常任委員会で福島県鏡石町の幼保連携型認定こども園に視察に行きました。この園は新しく、工夫された明るい園舎でした。

園児たちが楽しそうに過ごしておりました、  
また保育園から幼稚園にスムーズに移行できるシステムと感じました。

政府においても「子ども・子育て新システム検討会議」において平成22年4月27日の会合で  
子育て施策の財源と担当部局を一元化し、効率的な運用を行っていく方針を決めた。

「こども園」については幼稚園教育要領と保育所保育指針を「子ども指針(仮称)」に一元化し、  
保育も教育も提供する施設としていく。

これまで許可保育所の利用を「親の就労などで保育に欠ける子」に  
制限してきた制度は廃止するとなった。

現在、幼稚園の入園児が減少している。

少子化時代であり統合し「認定こども園」にすれば良いのではないかと考えるが、  
所管が文科省と厚労省に分かれている為統合が難航している。

所詮省庁の縄張り争いでしかない。

「認定こども園」は全国でまだ530か所しかない。

当市でも幼稚園に打診をしたと聞いたが非常に難しそうであった。

当市の保育園の現状は平成22年1月1日現在、

5歳児までの乳幼児7,001名に対して入園数は1,932名で入園率は27.6%となっています。

平成22年3月1日現在の入園児は総定員数1,640名に対し、

1,958名で入園率は119.4%であります。

また地域差が発生しております。

平成22年5月1日現在の入園率は、根戸保育園147.0%、緑保育園124.0%、

つくし野保育園125.0%となっております。

この結果を見ますと根戸保育園はすし詰め状態に近いのではないのでしょうか。

女性の社会進出や就労の多様化、経済状況の悪化などにより、共働き家庭が増加し、  
益々保育需要が高まるのではなかとを考えます。

待機児童ゼロ政策も重要ですが、園児たちにとっての保育環境の整備も大切だと思います。

園児保育に問題がでかねません。至急の対策が必要ではないかと思ひます。

ある保育園の園長先生が、私の保育園では保護者がお休みの日は、

どうしても必要な方以外はお断りしています。

そして、朝7時より夕方7時までお預かりしていますが、

できるだけ早くお迎えに来ていただけるようお願いもしているとのこと。これは、少しでも多く、子どもと  
接する時間を作ることが重要だからとのこと。

3歳までは幼児育児支援としてお母さんが働かなくとも済むような支援を政府は行うべきと考えますが如何  
でしょうか。

市当局は、待機児童ゼロ施策も進めなければなりません、乳幼児育児支援の充実を図ることを政府に強力  
に働きかけて頂きたいと思ひます。そして、若い世代が安心して子育てしやすい町づくりを目指して頂きたいと  
思ひます。

我孫子市は教育水準も高い、幼児育児支援も充実している。その結果若い人たちが定住してくれる。これは  
星野市長が常におっしゃっている、我孫子市に住んでよかった、になると思ひます。

## ★質問をさせていただきます。

質問1. 幼保連携型認定こども園などの開園は非常に難しいですが、  
今後開園に向けて行動をとることはありますか。

質問2. 我孫子地区の保育園はすし詰め状態です。  
特に根戸保育園、緑保育園、つくし野保育園、  
今後の対策は。

質問3. 3歳までは親の手で育児が出来ればすばらしい、育児休暇支援等県、  
国への働きかけはいかがでしょうか。

ご静聴ありがとうございました。当局の明快なご答弁をお願い致します。

